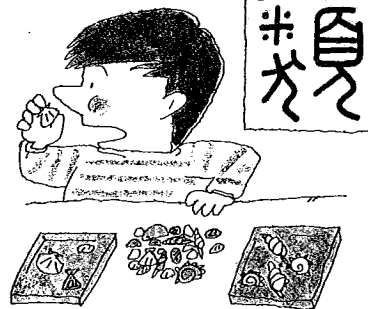


類

（4年）

18画
米 類 類 類 類



なりたち 旧字体は類。よく似て区別しにくい意味の類と犬との会意形声字。犬のようによく似た仲間」という意味の字。「同族・同種」「たぐい・たぐえる（くらべる）」。

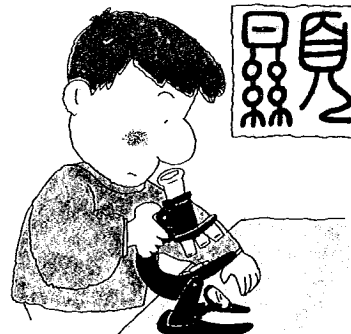
いみじゆく
▼よく似た仲間。たぐい。
同類：同じ仲間。例同類項（代数で、同じ指数を持った数どうし。また、よく似た仲間をからかつてこう呼ぶ。）
分類：同類のものをまとめていくつかのまとまりに分けること。
種類：ある基準にしたがつて同類のものをいくつかに分けた、そのまとまり。
人類：人間を、その他の生物と区別した呼び方。

類推：既に知っていることにとぐえて、推理すること。
比類：くらべる。例比類ない。（くらべるものがない。）
よみかた 類型・類別・親類

顕

（4年）

18画
日 見 顯 顯 顯



なりたち 旧字体は顯。古い形は顯で、日と絲と見との会意形声字。細い糸が日光のものではつきりと見えることを表した字。「あきらか・きわたつ・あらわれる・世に知られたること」。

いみじゆく
▼あきらか。きわたつ。
顕著：きわたっていること。あきらかなこと。例顕著な例。
▼あらわれる。あきらかになる。

顕在：あきらかに形をとってあらわれること。例潜在問題が顕在化する。
顕微鏡：かくしておいたことがあらわれること。ばれること。「露見」とも書く。
顕微鏡：きわめて小さなものを拡大して見るための器械。光学顕微鏡や電子顕微鏡がある。

煩

（4年）

13画
火 疋 煩 煩 煩



なりたち 火と頁との会意字。頭が熱くなるという意味の字で、用事が多くてあれこれと考え、頭がぼてること。頭を「わずらわす」こと。「思いわずらう・いらいらする・わずらわしい」こと。

いみじゆく
▼わずらわす。わずらう。
煩悶（ぼん）：思いわずらうて悩むこと。例煩悶の一夜を明かす。
煩惱：仏教で、人の心身をなやます欲。例煩惱を断つ。

さんこう 煩雑・煩多・煩忙は、それぞれ、「繁雑」「繁多」「繁忙」とも書く。

頒

（4年）

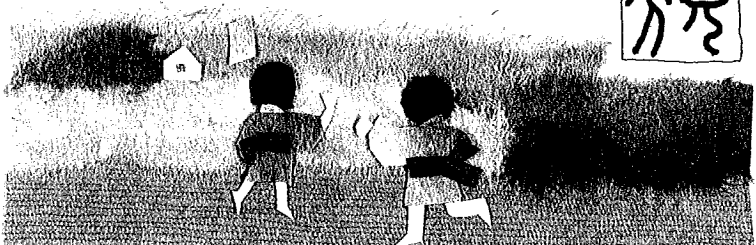
13画
分 分 頒 頒 頒



なりたち 分と頁との会意形声字。「頭を半分に分かつ」ことを表した字。今は単に「わかつ」意味に使われることが多い。また、「法令などを世の中に広く行き渡らせる」こと。

いみじゆく
▼わかつ。わけける。
頒布：分けて配り、広くゆきわたらせること。
頒価：分けて配る値段。

さんこう 煩雑・煩多・煩忙は、それぞれ、「繁雑」「繁多」「繁忙」とも書く。



煩 煩

類 顯